

合併記念特集

阿蘇一の宮農協・産山村農協・波野村農協・阿蘇南農協
黒川農協・阿蘇町農協・阿蘇小国郷農協

平成13年4月1日
JA阿蘇が誕生しました。



JA阿蘇開所式開催

「JA阿蘇」の開所式が4月1日、一の宮町勤労者体育館で開かれ、約300人が出席しました。丸山組合長は挨拶の中で、「組合員に信頼される農協づくりを目指したい」と述べ、来賓祝辞、合併経過報告、感謝状授与などが行われました。



目次

組合長挨拶	2
副組合長挨拶	3
役員紹介	
グラフで見る事業計画	4
合併までの歩み	6
JA阿蘇機構図	7
役員名簿	8
職員名簿	10
郷の四季合併記念祭	14
こんにちは、阿蘇清峰高校！	15
JA阿蘇の位置と概要	16



地域社会に貢献できるJAづくりに邁進

阿蘇農業協同組合 代表理事組合長
丸山 信義

新生・阿蘇農業協同組合の設立にあたり、組合員各位に一言ごあいさつ申し上げます。

阿蘇地区の広域合併につきましては、管内の七つのJAが「阿蘇はひとつ」を合言葉に、それぞれのJA組合員各位の熱い思いと、県、そして管内関係町村をはじめとする関係機関の温かいご支援とご指導により、無事に発足することができました。

ご存じのとおり、当阿蘇地区農業の現状を見ますと、担い手の減少や農業従事者の高齢化による農業労働力不足、米の生産調整、年々増加する輸入農産物、そして価格の低迷など、非常に厳しい状況下にあります。また、金融の国際化、グローバル化が進む中、JAにおいても改革が急務であるということで、農協改革二法案が閣議決定され、国会で可決される運びとなっています。これら一連の農業、JAを取り巻く環境を考えると、今JA合併なくしては、この厳しい農業情勢を乗り越えることができないのではないかと、組合員そして役職員が合併に取り組み、JA阿蘇設立を迎えたものと確信しております。

今回の広域合併により、新生阿蘇農業協同組合が目指すものは、第一に組合員に信頼されるJAづくりです。合併に至るまでは紆余曲折はありましたが、組合員のJA離れ、JA施設利用の低下等が言われる中、JA自らが原点に返り、営農と生活を守るため、指導体制を強化し、組合員ニーズと負託に応えることにより、より一層地域社会に貢献できるJAづくりをめざして、役職員一同、全力を上げて邁進してまいります。特に営農指導体制については、農畜産物の生産振興を図り、産地間競争に打ち勝つために営農指導の充実と併せて、販売の専従や、職員を設置することにより、販売力の強化を図ってまいります。このため、営農センターを3カ所に設置し、行政と連携しながら、作物別の専門指導や広域営農指導等の整備強化を進めてまいります。

これからは、新しい世紀に誕生した阿蘇農業協同組合として、役職員一体となって、熊本農業のけん引車となるべく、足腰の強いJAを目指して邁進してまいります。

関係町村および組合員各位におかれましては、ご指導ご鞭撻を今後ともよろしくお願いいたします。

農業振興と農協経営の確立に努力

構想発表から15年余り、幾多の困難を乗り越えて本年4月1日、阿蘇農協がスタートしました。組合員の皆様はもちろんのこと、町村をはじめ関係各位のご理解ご指導の賜物であります。規制緩和、競争激化など先行き不透明ななかで、心一つにして合併農協に期待を頂いている皆様の心中を思うとき、改めて経営者としての責任の重さを感じているところでございます。

12カ町村・7農協、組合員1万3千余名、それぞれの地域、それぞれの農業形態があるかと思いますが、佐賀県にも匹敵する管内面積、小国郷・中部・南部の違った地域性を生かし、組合員の営農と生活をいかにして守り向上させるか、そのために役員がやらなければならないこと、さらには組合員さんをお願いしなければならないことを明確にしながら、農協としての総合力を高めていくことが新生阿蘇農協の大きな課題だと認識いたしております。地域に密着した農業の振興と健全な農協経営の確立を目指し、役職員一体となって努力いたす覚悟であります。

JA阿蘇の出発にあたり、組合員をはじめ関係各位の更なるご指導とご鞭撻を心よりお願い申し上げます、ごあいさつと致します。

組合員一体となった新たな挑戦を

21世紀初年度という記念すべき年に「JA阿蘇」の発足が実現できましたことは、大変素晴らしいことであります。

ところでここ数年、わが国は経済構造の変革期を迎えております。すべての品物が世界中を自由に流通する経済のグローバル化が進み、中でも労賃の安いアジア近隣諸国からの農産物の輸入増大は、農家にとって大きな脅威であります。その上、農山村は少子高齢化により労働力の弱体化が一段と進んでまいりました。さらには、IT革命によるインターネットの急速な進歩によって農畜産物をはじめすべての物の流通が大きく変わり始めました。

このような変革にいかに迅速に対応するかが、JA阿蘇の最も重要な課題であります。環境の時代、共生の世紀といわれる21世紀は、都市と田舎がそれぞれの持つ機能や条件を生かすことによって幸せが共有できるわけでありませう。

阿蘇の農家が阿蘇で生きるためには、阿蘇の持つ独特の自然環境や純朴な人間性を生かした新たな方向への転換が必要であります。

JA阿蘇は行政のご協力をいただき、組合員の皆さんと一体となって新たな挑戦を始めますので、組合員の皆様のご理解ご協力をお願いします。

役員のご紹介



代表理事常務
荒牧 弘幸



代表理事常務
堀 阿蘇夫



代表理事常務
河崎 徳雄



代表理事常務
緒方 健一



統括支所担当理事
渡邊 六男



統括支所担当理事
市原 契春

グラフで見る平成13年度事業計画

基本方針

昨今の農業情勢は、担い手の減少や農業従事者の高齢化による農業労働力の不足、主要農産物の需要供給の不均衡化、特に主食である米の生産調整や輸入自由化に伴う農畜産物の価格の低迷等々、農業にとり非常に厳しい状況にあります。

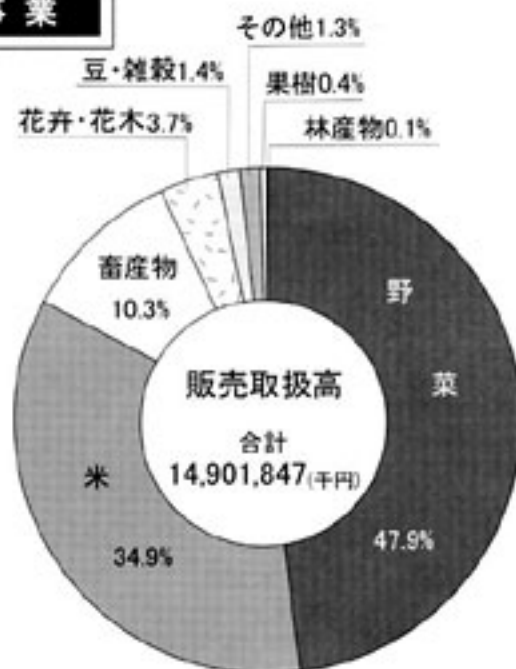
一方、JAを取り巻く環境は、農業状況の低迷に伴う組合員の経営形態の多様化、地域住民との共生、経営情報開示制度や早期是正措置の導入、さらには業務運営全体の合理化・効率化が必要となっています。また、JAの経営を支えてきた信用・共済事業において業態間の垣根が漸次改廃され、金融・証券・保険の相互参入による攻勢がさらに強まり、より一層の競争激化が始まり、事業展開・運営は非常に厳しく、JAとしての姿勢が問われています。

このような状況の中、今後将来にわたり、組合員のニーズに応え、組合員の営農と生活を守り、さらには地域社会発展に、JAとして貢献するためには、JAの機能や役割を、もっと新しく改善し、基盤のしっかりした経営形態を確立するとともに、組合員と共に組織力を結集し、農業のあり方、JA組織のあり方等の課題克服に取り組みます。

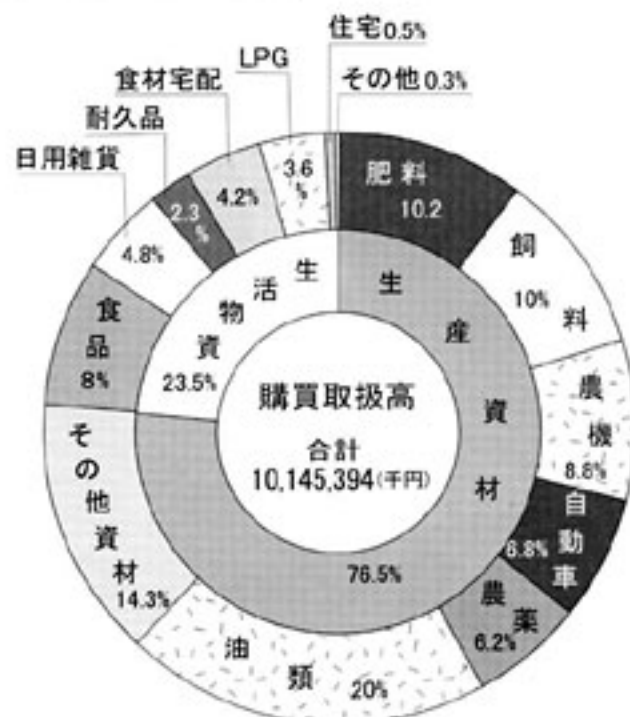
目指す基本方針は次のとおりです。

1. 組合員に信頼されるJAを目指します。
2. 営農・生活の指導体制を強化し、農家所得向上に努めます。
3. 役職員の知識と施設・資金を広域的に効率よく活用できるよう努めます。
4. 高齢化する組合員に生きがいをもつ事業の展開を図ります。

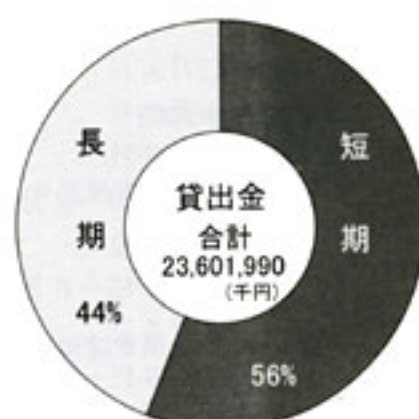
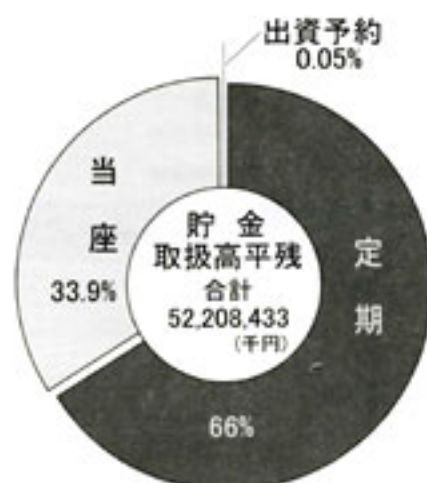
販売事業



購買事業



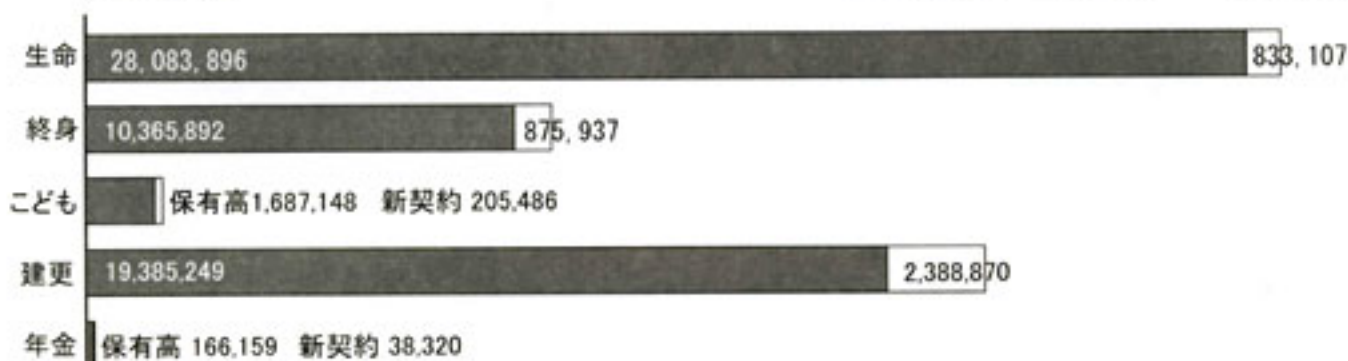
信用事業



共済事業

長期共済

保有高 新契約 (単位: 万円)



短期共済

(件数)



「JA阿蘇」合併までの歩み（抜粋）

（平成11年12月27日～平成13年4月1日）

平成11年12月27日	阿蘇地区農業協同組合合併推進協議会発会
平成12年1月22日	第2回阿蘇地区合併推進職員研修会
2月7日	第1回小委員会（以後11月20日まで計13回開催）
2月中旬～3月上旬	第1回集落座談会
2月26日	第2回阿蘇地区合併推進職員研修会
5月下旬～6月上旬	第2回集落座談会
6月5日	第2回阿蘇地区農業協同組合合併推進協議会
7月3日～7日	予備財務確認
8月11日	小委員会・青壮年部・女性部合同会議
8月30日	青壮年部長・女性部長合同視察研修
10月20日	阿蘇郡JA役員視察研修
10月25日	阿蘇郡青壮年部・女性部視察研修
10月31日	第3回阿蘇農業協同組合合併推進協議会
11月上旬～中旬	第3回集落座談会
11月20日	阿蘇地区農業協同組合合併予備契約調印式
12月10日	合併臨時総会
12月15日	阿蘇農業協同組合設立委員会 (以後3月9日まで計5回開催)
平成13年1月17日	第1回設立小委員会（以後3月12日まで計7回開催）
3月12日	第1回理事会・監事会開催
4月1日	阿蘇農業協同組合スタート

※以上の他、参事会・専門部会・諸会議を延べ100回程度開催



写真は「第1回理事会・監事会」の様子



阿蘇農業協同組合役員名簿

個人情報保護方針に基づき
掲載しておりません。
ご了承ください。

**個人情報保護方針に基づき
掲載しておりません。
ご了承ください。**

阿蘇農業協同組合職員名簿

本所

総務参事	工藤	藤井	寛圭	明典
業務参事	島津	津洲	和宗	典広
総務参与(出向)	浜高	村瀬		二忠
総務部長	早瀬	原野	美智	生甚
総務部人事教育課長	眞今	水野	由美	子一
総務部付託熊本県総合農業情報センター出向	荒本	牧田	和正	美代
総務部付	本郷	本明	水城	大り
総務企画課長	志賀	井哲	賢臣	二徳
経理電算課長	荒園	岩下	藤本	美達
	後橋	井甲	斐川	千征
債権対策室長	谷佐	岩園	藤原	孝三
債権対策課長	藤崎	山光	男生	
監査室長	春江	方加	士男	
監査課長	緒池	中村	鈴子	
金融部長	原橋	本野	一利	
金融部融資課長	笠野	尻井	英夫	
融資課長代理(出向)	穴阿	北里	今村	
貯金為替課長	玉井	佐野	藤野	
課長代理(出向)	井齊	宮川		
貯金為替課				
共済部長				
次長(出向)				
普及課長				
普及課LA担当				
保全課長				
業務課長				

営農部長
指導部部長(出向)
営農部福祉課長
営農企画課長
課長代理(出向)

事業課長
園芸課長
農産課長

購買部長
購買課長
購買担当
燃料課長

農機車輛課長
事務処理課長

小国郷中央支所

中央支所長
金融共済課長
情報企画センター担当
貯金担当(農業者年金担当)
貯金担当

融資担当
共済担当

杉野 裕一郎
石伊 義照
笹原 光清
宮川 丈嘉
北大 嘉秀
大塚 富浩
佐藤 西政
松田 賢美
工藤 由紀
佐山 美智
有伯 ゆり
荒佐 藤人
佐井 弘之
後藤 唱
後田 健
田上 勝
本藤 一
成瀬 誠
岩下 純
佐藤 竜
宮本 栄
後藤 順
坂田 明
大津 昭
野田 美
下野 奈
杉野 優

堂秀 美
藤義 磨
崎哲 也
松誠 也
本調 一
吉武 臣
水祐 司
苦真 弓
塚雷 作
野裕 美
佐藤 香
藤結 紀
美順 子
谷里 香

共済LA渉外担当

購買課長

資材店舗担当

小国給油所

●小国支所

小国郷中央支所金融共済課小国支所

●南小国支所

小国郷中央支所購買課(南小国事業所統括)金融共済課南小国支所

Aマート

南小国給油所

農機センター

三明 平助
義泰 英賢
井田 木津
穴河 今梅
河原 佐下
宅宇
宮時
矢久
梅長
佐

優久 美智枝
見宮 津
穴宇 河

卓美 寿
里原 部
北田 長
原北 梅
渡橋 長

波野中央支所

中央支所長
金融共済課長兼購買課長
金融・共済・渉外担当
庶務・出納担当
貸付担当
貯金担当
給油所
購買担当
農機車輛担当

産山中央支所

中央支所長兼金融共済課長
金融共済課

太己 一祐
正誠 洋
藤澤 美智子
首古 井
古水 確
古水 市
筑紫 下

潔子 也
川藤 京
宮井 井
幸

なるみ 博美 治一 博和 道治 誇
 橋原 足井 木 賀
 高石 帆井 井 志
 購買課長 購買課
 Aマート店長
 農機センター長
 車両係
 農機係

黒川中央支所

中央支所長 坂田 康雄
 金融共済課長 山本 榮二
 貯金担当 村上 孝子
 共済担当 河崎 美佐子
 貯金担当 森美 和雄
 購買課長 家入 文子
 支所担当 佐藤 紀子
 生活指導担当 吉田 茂成
 黒川給油所長 吉田 澄夫
 児森 西 同 徳 岩 義
 農機センター長 森 中 原 義夫

阿蘇町中央支所

中央支所長 藤田 和美
 金融共済課長 中島 正己
 渉外担当 佐藤 好美
 共済係 橋本 芳子
 金融係 江口 昌代
 山内 美幸
 阿部 堅志
 中大 島 裕美
 津藤 健司
 島隆 文一
 清坂 本 晃
 坂山 口 淳
 山本 顕弘
 楠喜 美男
 森英 三子
 伊藤 修二
 田博 文生
 池修 由美
 下河 光枝
 森鎌 倉 敬
 村市 上 尚

川村 藤富 一夫
 英友 誠あず 真奈 司
 今下 伊林 永 橋 本 田 原 正 代
 島 今 下 伊 林 永

●第一支所

第一支所 橋本 田 原 正 代
 金融係 藤 蔵

●阿蘇乙姫支所

支所長 富田 今朝 春
 共済係 斎藤 典子
 金融係 石 本 典子

●永水支所

支所長 江藤 則一
 金融係 吉田 タミ
 共済係 松本 博浩
 給油所 松本 克公
 宮石 本 公 勝

●尾ヶ石支所

支所長 河原 照雄
 共済兼融資係 山内 今朝 重
 金融係 田代 美佳
 江入 美香
 山本 隆行
 購買・共済担当

●山田支所

支所長 大和 政則
 金融係 井部 みゆき
 共済係 阿部 野 鯉奈子
 橋本 由美

一の宮中央支所

中央支所長 坂本 光信
 金融共済課長 甲斐 一誠
 金融共済課 井野 征子
 井藤 美子
 工藤 ひとみ
 高井 鶴和
 山本 孝宏
 室富 美幸
 石田 栄子
 古閑 義幸
 春野 三喜
 西村 晴男
 宇都宮 豊満
 斎藤 博光
 山嶋 口 尚仁
 今井 村 優子
 井野 美や子

村赤 竹林 渡白 山吉 岩高 陣
 上 司 石 辺 石 部 田 下 橋 野
 ひろみ 治一 豊子 輔要 助也 昌
 さゆり 貞俊 一の 聡 宗之 幸敬
 一の宮給油所長 給油所
 坂梨給油所

●宮地支所

支所長 工藤 徹雄
 鳴倉 川 由美子
 岡 みさ子

●坂梨支所

支所長 井野 武美
 和 田 喜美子
 甲 斐 喜代美

●古城支所

支所長 市原 鉄朗
 白 石 洋子
 市 原 幸 代

●中通支所

支所長 笹原 敏夫
 山 部 久美子
 後 藤 千奈美

西原中央支所

中央支所長 坂梨 公介
 金融共済課長 高宮 由雄
 金融共済担当 中山 義幸
 出納担当 山本 清子
 貯金担当 高木 志保子
 共済兼女性の会担当 川元 昭博
 共済部普及課しA担当 永野 輝仁
 購買課長 今村 本房
 購買担当 藤中 田 浩
 西原給油所長 津西 留村 田 井 内 下 澤 本 吉 本
 酒田 井 内 下 澤 本 吉 本
 竹山 藤 高 秋 山
 農機センター長 農機担当 車輛担当 農機担当 事務担当

●河原支所

支所長 加藤 政弘
 金融共済課貯金担当 志内 純子
 購買課購買担当 稲浦 りか

蘇陽中央支所

中央支所長	森山	田中	輝敬	昭夫
金融共済課長	山村	中上	テイ子	
金融担当	村惣	川	佳奈子	
貯金担当	町		みど	
森陽町役場収入役室出向	飯姫	星野	澄活	子昭
共済担当	姫二	宮斐	辰義	司昭
金融共済担当	甲興	斐梶	龍	一子
渉外担当	藤佐	屋藤	ヒロ	子三
共済部普及ＬＡ担当	姫佐	野藤	昭則	美子
購買課長	工工	藤藤	喜直	幸成
購買担当	吉高	北本	正光	昭治
船舶油所長	工甲	藤斐	英昌	道明
農機車輛センター長	下興	田梶	光一	馬雄
農機担当	後藤	澤	秀久	志心
車輛担当				美
Ａコープ森陽店長				

●馬見原支所

支所長	長谷野	哲納
支所長代理	田上	幸納
金融共済課貯金担当	坂本	子代
出納担当	片倉	直光
馬見原給油所長	赤星	幸
	泰木	

高森中央支所

中央支所長	岩	下	卓	夫
金融共済課長	興	柁	壽	一
貯金担当	宇	藤	ひと	み
	津	留	由香	理
出納担当	安	藤	和	枝
渉外担当	相	馬		篤
金融共済係（信用渉外業務）	田	代		勝
野尻駐在渉外担当	本	田	雅	康
共済課共済担当	津	留	みゆ	き
	西	脇		能
共済部普及課L A担当	甲	斐	いつ	み
	津	留	靖	代
購買課長	津	留	尚	三
購買担当	栗	焼	三	千
	工	藤	智	宏
	堤		千	鶴
購買兼女性の会担当	岩	下	久	美
高森給油所長	甲	斐	幸	一
	阿	南	誠	二

● 草部支所

支所長	下田善紀
支所長代理	本田田恭輔
金融共済課出納担当	荒牧和代
貯金担当	佐藤ツモ
購買課購買、販売担当	工藤健蔵

●野尻支所

支所長	渡邊	吉保
支所長代理	堀田	計
金融共済課金融共済担当	野尻	仁
貯金出納担当	安藤	江
貯金担当	赤星	美
購買課購買担当	吉良	男
購買課女性の会担当	阿南	喜和子

白水中央支所

中央支所長	後長	藤崎	英	幸
総務課総務兼女性の会担当	佐	伯	き	み
金融共済課長	後	藤	よ	雄
金融担当	後	藤	一	幸
貯金担当	後	田	貞	美
金融共済担当	富	崎	照	子
	松	下	麻	衣
	後	津	健	吾
	岩	方	少	合
共済担当	大	藤	公	昭
共済部署及課L A担当	緒	宮	定	士
購買課長	後	岡	秋	男
購買担当	高	川	浩	幸
	松	野	良	郎
白水給油所長	中	田	勝	也
白水給油所担当	橋	野	慎	一
共済部署兼課阿蘇南部業務SC担当	野	都	省	二
	加	藤	義	照
			信	一
			清	孝

久木野中央支所

中央支所長	市原	哲志
金融共済課長	永野	行也
金融共済担当	今村	杉也
貯金担当	興呂木	恵子
出納担当	藤原	美紀
共済担当	古沢	幸生
共済部普及課L A担当	藤本	太穂
購買課長	佐藤	健美
購買担当	安達	精一
購買兼女性の会担当	渡邊	
久木野給油所担当	光古	

長陽中央支所

中央支所長 津 留 明 義
金融共済課長 宮 崎 時 男

総務担当	古藤	庄原	恵智	子子
貯金担当	藤馬	原場	元千	紀春
金融共済担当	甲市	斐原	恵良	一多
共済部普及課L A担当	後岩	藤下	一美	広香
購買課長	後工	藤吉	真次	紀雄
	住立	石	論	亮
長陽輪油所担当				

小国郷営農センター

泰也み司幸一合輪平一親剛政平淳一幸平康也望代夏樹也信淳男則也篤紀浩彦光紀樹子雄宏正美	隆植ひと勝一博雄賢慈雄和孝雄竜英創純勝さや直卓芳末寿直美由貴光直淑幸暢千代	里野川崎松部田野木宮山山塚松谷方津口藤貫木本野吉城田隈井藤田津里津沼井藤高野藤藤井	北宅平松時長武高梅宇原浦大石洩緒河出佐綿梅宮井秋下杉日穴佐武河北河飯穴佐清北水後佐穴	営業センター長 副課長 経理・精算担当 指導担当	販売担当	事業課長 外商担当	牛乳処理センター 検査担当 庶務担当	食肉加工センター 製品加工センター 物産館	生活福祉課長 生活・福祉担当 農産課長 加工利用担当	庶務担当 米穀担当 畜産課長 庶務担当
--	---------------------------------------	---	--	-----------------------------------	------	--------------	------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	----------------------------------

JA阿蘇直販店「郷の四季」 阿蘇の特産品を一堂に 合併記念祭大売出し開催



5月26日(土)午前9時から、JA阿蘇直販店「郷の四季」でJA阿蘇合併記念の大売り出しが行われました。まず開店に先立ち、丸山組合長が「今後とも郷の四季をよろしくご愛顧ください」と挨拶し、店開きしました。店内や駐車場の特設テントには阿蘇各地から直送された新鮮な野菜、果物、花卉、米、精肉、畜産・農産加工品などが並べられ、近隣の団地から押し寄せた買物客で賑わいをみせていました。郷の四季はJA阿蘇南(当時)のアンテナショップとして平成7年11月オープンした施設です。



住宅街の一角にある「郷の四季」



「からいもの天ぷらコーナー」にも行列が...



郷の四季店内レジにも行列ができました



いらっしゃい、いらっしゃい。記念祭が始まるよ～



駐車場の特設テント売場には農産品がいっぱい



安い、新鮮、安全がJA阿蘇の農産物!

さとのしき
郷の四季

菊池郡合志町幾久富(永江郡地内)

■営業時間/AM10:00~PM6:00

■定休日/毎週水曜日

△096-248-7220

創立100周年、今も生きるフロンティア精神



平成9年に制定された校章

阿蘇郡内唯一の農業高校だった「阿蘇農業高校」が平成9年、県内で初めて社会福祉科を取り入れる学科改編をしたことから、校名を「阿蘇清峰高校」と改称しました。同校は、札幌農学校のフロンティア精神を受け継ぐ県下有数の農業高校として、今日まで1万3,000人にも及ぶ人材を輩出。昨年10月には創立100周年を祝う記念式典を行いました。現在、阿蘇清峰高校には農業生産活動を中心に学ぶ「生物科学科」、森林の多様な役割や活用方法を学ぶ「森林科学科」、土木工学や環境工学の基礎を学ぶ「環境科学科」、そして福祉・看護・家庭の基本的な知識・技術を学ぶ「社会福祉科」の4学科があり、352人の生徒が勉学に勤（いそ）しんでいます。



郷 勝征 学校長



熊本県立阿蘇清峰高等学校
〒869-2612 熊本県阿蘇郡一の宮町宮地4131
TEL.0967-22-0045 FAX.0967-22-5161

● 農業の活力は地域の活力 ●

今春、鹿本農高から着任された郷勝征校長先生は「農業の活力は地域の活力」という持論を展開されており、「JA阿蘇に「広報JAあそだより」の紙面を借りて、阿蘇清峰高校の情報を発信したい…」という趣旨のご提案がありました。そこで早速、阿蘇清峰高校におじゃまし教育方針など郷校長先生にお話をうかがってみました。

郷校長先生は冒頭に、本年度の教育目標として「新たな文化の発信と地域産業の振興に貢献する人材の育成」を掲げ、その具体的な方針として

1. 誠実にして心に火を灯せる教育を実現
2. 形を大切にする教育（形とは、挨拶・服装・礼儀・モラル・気配り・他への思いやり）
3. 一人一人を大切に、伸ばす教育の実践
4. 地域に注目され期待される学校づくり
5. 失敗を怖れず前向きにチャレンジする集団づくり

6. 社会（企業）の求める人材育成（体力・集中力・思考力・実践力・豊かな感性）
を挙げ、次のようなこと（要旨）を語られました。

● 地域興しに必要な人材教育を ●

世界に類（はばた）く人材の育成より、地方の時代と言われる今日、地元に残り、阿蘇を発展させていく人材づくりに重点を置く教育をしたい。同時に新たな農産品、儲かる農作物を開発し、学校で試作した成果を地域に還元し、新たな時代の農業文化を発信していきたい。そのような取り組みが、地元を興していく人材の形成につながると思う。しかし、その成果は20年、30年先しか実を結ばないかもしれないが、まず1歩1歩足元から固め、地域社会と連携していくことが大切だ。特に農業を通しての教育において、自然や家畜と触れ合うことが人間としての資質を育み、他の産業分野に道を求めても大いに役立つこととなる。

今後、「JAあそだより」では定期的に阿蘇清峰高校の活動を紹介していきます。
ご意見やご要望などありましたら、JA阿蘇総務部までお気軽にお寄せください。

